

風力発電の導入についての基本的な考え方に関するご意見の概要

日本鳥学会事務局

2022年10月31日～11月6日にweb上において、および11月6日に東京農業大学北海道オホーツクキャンパスにて開催された日本鳥学会大会の自由集会において、会員の皆様からご意見をいただきました。Webでは合計20件のご意見をいただき、自由集会には約70名の参加者をいただき数件の意見をいただきました。頂いたご意見やコメント、それらに対する鳥学会事務局の回答を以下に示します。

なお、webおよび自由集会においては「基本的考え方」以外についてのご意見もいただきました。それについては学会誌の自由集会報告記事等で報告する予定です。

1. 「風力発電の導入についての日本鳥学会の基本的な考え方」を社会に向けて示すこと自体に対するご意見

○Web でいただいた20件のコメントのうち、19件が賛同のご意見でした。また、自由集会において「考え方」を示すこと自体への反対意見はありませんでした。

○賛同意見として以下のコメントがありました。

- ・こういった考え方は日本生態学会からも示されているなど、最近では学会でも独自の考え方を示すことが多くなってきている。特に風力発電と鳥類の関係については、日本鳥学会として考え方を示すのは良いこと。

- ・あまりにも生態系に配慮ができていない風力発電施設の建設に関して、これまでは個別に要望を上げるしかなかったので、こういった活動は良いこと。

- ・鳥類は、風力発電施設の建設による影響を大きく受ける生物種であるので、計画が加速している今日、鳥学会としての基本的な考え方を社会に向けて示すことは重要である。

- ・プレスリリースの他、主要メディアへの直接投げ込みなど広報の強化も必要。

- ・既に猛禽類や海鳥において風力発電による影響が報告され、関心が高まっているにもかかわらず日本鳥学会としての考え方が、未だまとめられていないことを単純に悲しく思う。もっと早い時期にまとめるべきだったと思われるが、兎にも角にも早急に社会に対して示すべき。

- ・秋田県在住。本県では海岸線のほとんどが風車で埋め尽くされ、陸上でもガンの中継地・渡来地として世界的に重要な能代市小友沼に近接する地域をはじめ各地でさらなる建設が進んでいる。さらに、国の主導する洋上風力「促進区域」に指定されたこともあり、多くの洋上風力発電計画が乱立する危機的な状況にある。私どもは日本野鳥の会秋田県支部として、日本雁を保護する会、日本野鳥の会と連携して、これまでに事業者、政府担当省庁、県等に多くの意見書等を提出してきたが、残念ながらその成果はほとんどあがっていない。今回、鳥学会としてより積極的に意見発信及び科学的根拠等を提示していただ

けることは心強く、今後連携して活動できればありがたい。

・最初の一步として評価するが、すでに国内で数百もの風力発電事業の環境アセスが始まっており、鳥類の生息地を守り、持続可能な社会を作るためには、もっと迅速で積極的な対応が必要だと思う。日本鳥学会も他団体と共同で記者会見を行ったり、政府への意見書提出など積極的な行動を求められていると思う。日本生態学会でも自然エネルギーによる環境破壊に対する意見書提出などの動きがあるので、同じ学会として共同で意見書提出や記者発表を行うという方法も考えられる。

・北海道在住。当地の風力発電事業において現地の状況が環境影響評価に十分に反映されていない恐れがあるので、日本鳥学会などの専門家は、第三者として、各事業者が予定している風力発電所の環境影響評価書を詳しく見つめて、評価することが必要になるのではと思う。そのため学会の「考え方」の表明に賛同する。国も、風力発電の導入のあり方などについての法律を調整する必要もあるかもしれない。そのための日本鳥学会の活動も期待したい。

(回答)

風力発電施設の建設計画が加速する現在、それらの施設が鳥類に与える影響を注意深く評価する必要があり、その実現のために、鳥類の専門家集団である日本鳥学会が風力発電の導入についての基本的な考え方を示すことは重要と考えます。報道メディアを活用した広報についても今後検討いたします。

○以下、一件の反対意見がありました。項目ごとに回答いたします。

「示すこと自体」に違和感を持っている。理由は以下の4点である。

1. 太陽光パネルについては語らず、風力を問題とするのかについて疑問を持っている。

(回答)

日本鳥学会鳥類保護委員会内に風力発電をはじめとする自然エネルギー関連施設計画に特化した「風力発電等対応ワーキンググループ」が設立されています。今後、風力発電以外の自然エネルギーに関する情報発信も行っていく可能性があります。

2. 現在いくつかみられるバードストライクの研究についても、そのメカニズムが解明されてはいないと評価している。この段階で風力発電を対象として十分に科学的な説明ができるかについて疑問を持っている。単にバードストライクの個別事例を提出し「あつてはならない」とするならば、それは科学ではない。

(回答)

バードストライクの発生メカニズムについては未解明な点もありますが、その発生状況については国内においても科学的に評価されています(たとえば浦 2015)。また、風力発電が鳥類に与える影響として、風車回避の弊害や生息地の喪失なども科学的に検証されています(たとえば Drewitt AL, Langston RH 2006)。

浦 達也(2015) 風力発電が鳥類に与える影響の国内事例. *Strix*, 31:3-30

Drewitt AL, Langston RH (2006) Assessing the impacts of wind farms on birds. *Ibis*, 148:29-42

3. 「日本鳥学会」が提言したとなると、マスメディアが飛びつくことが予想される。科学的吟味なしに独り歩きし、極めて政治的に利用される可能性は極めて高い。私は鳥を愛し鳥学会を愛するがゆえに、鳥学会が「環境保護活動家団体」とみられることを好まない。

(回答)

考え方の第四段落に「日本鳥学会は、風力発電施設の導入には、科学的根拠にもとづき、鳥類への影響を回避し、それができない場合にはその影響を可能な限り軽減する必要があると考えています」とあるように、風力発電の影響評価やその影響軽減策の構築には科学的根拠が不可欠であると考えます。マスメディアへ対応については今後検討いたします。

4. 包括的な宣言は不要。今後個別事案として、どう見ても看過できない事案が出てきたときに、具体的な提言を行えば十分と考える。その前提として十分な研究が必須であろう。

(回答)

現在、日本国内各地で風力発電施設の計画および建設が進んでいます。いくつかの地域では複数の事業者が同時に導入計画を進めている場合もあり、個別の計画に対し都度対応することが現実的ではなくなりつつあります。このような状況の中、学会として大局的視点から風力発電に対する基本的な考え方を示すことが重要であると考えます。

2. 「風力発電の導入についての日本鳥学会の基本的な考え方」の文案に対するご意見

○Webにおいて6件、自由集会において1件のご意見がありました。

・「再生可能エネルギー施設を検討する段階において、生物多様性保全上重要な地域や猛禽類の生息地や渡り鳥の移動ルートなどをあらかじめ回避することにより、生態系や生物多様性に配慮した立地選定をすることが最も重要である。」とあるように、希少猛禽類の生息が判明し EADAS で共有されている地域は回避することを記述すべきではないか。具体的には、考え方(案)の3パラの5行目で「風力発電施設の導入には、希少猛禽類の既知の生息域はあらかじめ回避し、立地場所が当該生息域に近接する場合であっても、科学的根拠にもとづき、その影響を可能な限り軽減する必要がある・・・」などと記載。原案のままでは、現行の事業者がやっていることを追認しているのと同等に見える。もっと強い表現を期待する。

・文案によれば、鳥類への影響を回避できない場合においても、可能な限りその影響を軽減することで風力発電施設の導入が可能であると読み取れる。全く影響がないことを証明することはできないが、鳥類への強い影響を確実に回避できないのであれば、施設の導入は中止すべきであり、科学的根拠に基づいて、場合によっては中止する必要があると明

示すべき。

・下から 5 行目の「それができない場合にはその影響を可能な限り軽減する必要があると考えています。」についてですが、今も事業者は可能な限り軽減しているが、その軽減加減が事業者次第ということが問題です。例えば、「それができない場合には、事業の縮小や中止が必要であると考えています。」のようにもっと踏み込んだ書きぶりが必要ではないでしょうか。最近のメガソーラー、風力発電の環境影響評価準備書への環境大臣意見や経産大臣勧告でも事業縮小や中止を盛り込んだものもあります。専門家集団として駄目なものは駄目とはっきり言うべきだと思います。

・「科学的根拠にもとづき」の部分について、科学的根拠があっても不確実性が高いのが風力発電だと思うので、人間と同じように鳥類の命を守るという意思表示がさらに強くあってもいい。

・「可能な限り」という言葉は事業者ができる範囲になってしまい、やりたい放題になる。希少鳥類、希少でなくても多くの鳥類に影響が出る場合、できる範囲ではなく望ましい・好ましいという文言にすべき。できる範囲というと順応的管理や累積的影響評価も否定しかねない。

・第 3 段落を一番最初にして、第 1 段落を最後にした方が文章の流れとしてよくなると思います。そして、2 段落目に風力発電環境アセスの緩和状況を入れて、その懸念などを補足してはいかがでしょうか。

・現在の環境影響評価は、事業者と住民との間の情報量や知識の差が大きく、事業者に対し適切な意見を述べたりすることが困難です。また、住民自らが学会に協力を求めるということも敷居が高く、あまり行われていません。そういった地域住民や市民団体に学会から働きかけて積極的に協力することが必要だと思います。「地域住民や市民団体とも積極的に協力関係を築いていきます。」というようなことを入れていただきたいと思います。

(回答)

鳥類への強い影響の確実な回避が必要であることが明確となるよう、「可能な限り」等の文言の削除・修正、「導入の縮小や中止」や「地域住民や団体との連携」への言及について今後検討いたします。

以上